



## 「少年の主張大会」市内中学生の主張内容紹介③

県少年の主張大会（尾花沢大石田地区）に出場した、尾花沢中学校3年の高橋菜月さんの、主張内容を紹介します。

### ■「尾花沢を未来へ」

季節によって変わる美しい景色。響き渡る子供たちの明るい声。自然が広がる穏やかな湖。それが、徳良湖。尾花沢市内にある大きな湖です。この場所は、私に改めて自分が生まれ育った尾花沢について考えるきっかけを与えてくれました。

私は、芸術部に所属しています。スポーツは苦手。絵もあまり得意ではない。でもパソコンだったら自分でもできる！と思って芸術部に入部し、パソコンチームとして活動することにしました。芸術部のパソコンチームはパソコン操作だけでなく、毎年、コンクールにも作品を出品しています。

一昨年、築堤100周年を迎えた徳良湖。その年、私たち芸術部はこの徳良湖と花笠おどりをテーマに発表することにしました。小さい頃に遊びに行った徳良湖、今も踊り続けている花笠おどり。正直、二つとも「ただ昔から尾花沢にあるもの」というイメージしかありませんでした。しかし、徳良湖や花笠おどりには、たった一言では言い表せないくらいの長い歴史と人々の思いが詰まっていたのです。

農業用のため池として、田んぼに水をやるためにたくさんの人々の手で作られた徳良湖。作っていく過程の中で土を固めるために、土つきという地固め作業を行います。黙々と作業する人々の疲れを紛らすため、暑さをやわらげるために笠で風を送るしぐさが花笠おどりの始まりだったのです。全国的に山形市で開催される花笠まつりの手踊りが有名ですが、実は尾花沢が花笠おどりの発祥の地だったのです。尾花沢を代表する徳良湖と花笠おどりが同時に誕生したと知り、たいへん驚きました。

「きっとみんなこの事実を知らないはず。この尾花沢の誇りである徳良湖の歴史や花笠おどりのルーツを伝えたい。」次第に私はこう思うようになりました。調べていく中で、実際にこの目で確かめてみたい！と思い、徳良湖に足を運びました。歴史を

知った上で訪れた徳良湖の風景は、なんだか以前と違って見えました。こんなに広い湖が、尾花沢の人々の手で作られたということが未だに信じられません。

「百年もの間、昔と変わらずここに存在している。」現在は周辺に公園や温泉もでき、観光地や市民の憩いの場として気軽に訪れることができる場所になっている徳良湖。改めて私たち尾花沢市民にとってなくてはならないものだと感じました。同時に、この徳良湖を作ってくださった昔の人々への感謝の思いでいっぱいになりました。

このことをまずは、尾花沢に住んでいる人たちに知ってほしい！私たち芸術部のそんな強い思いから、作品を文化祭で発表することになりました。発表が終わると、

「すごかったねー！初めて知ることがいっぱいあっておもしろかったよ。」という友達からの言葉。同じ場所で生まれ育った仲間や家族に尾花沢の魅力を知ってもらい、共有することができた嬉しさと胸がいっぱいになりました。この作品は、全国自作視聴覚教材コンクールでも入選し、現在インターネットで誰でも視聴できるようになっています。

私はこの先もずっと尾花沢で暮らしていきたいと思っています。現在、毎年人口が減り続けている尾花沢。大きなショッピングモールやおしゃれな建物はないかもしれない。けれども、私が生まれ育ったこの尾花沢には人々の努力と思いが詰まって作られた徳良湖、全国に知れ渡る伝統の花笠おどりがある。これからも地域の活動に積極的に参加し、この豊かな自然や受け継がれてきた伝統を守り続け、尾花沢の魅力を未来へと伝えていく。

「それ、やっしょうまかしよ、尾花沢！」



【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課  
教育指導室長 工藤 雅史  
TEL 23-3330